

## 日本、RCEP で実質インド除外へ方向展開か

2020年2月20日の産経新聞電子版は、「日本政府、難航するRCEP交渉でインド取り込む“プランB”を模索」との見出しのもと、「次善策として“プランB”を「頭の体操として練り始めている」（経済官庁幹部）」と伝えた。

このプランBは、「具体的な内容としては、「中国とインドの間で関税協定を設けない」、「15カ国によるRCEPの枠外でインドと日本・オーストラリアなどが貿易協定を結び、その上で将来的なインドのRCEP合流を目指す」案」と報道されており、もとより確定したものではない。

しかし内容的には、離脱宣言したインド抜きでRCEPを成立させ、インドは名目的にメンバーにするというものである。

内容に即して見出しをつければ「日本政府、インド抜きのRCEP妥結を検討。インドは名目的参加か？」となるものであろう。

もちろん、このような記事が出たこと自体、経済官庁幹部が意図的に流したものであろうし、すでに関係国に非公式に打診をしている可能性もある。

4月にはASEAN首脳会議がありこの機会にRCEPの法的テキストの公表、署名が行われる可能性は十分にある。そのときこのプランBが現実になるか、あるいは単なる頭の体操で終わるか明らかになるであろう。

**Author** 鈴木恒久 元東京税関調査部長 大蔵省関税局企画課では5年わたり関税改正に従事。国際調査課長補佐として3年間、外国の関税・税関制度の調査・研究に従事。他に税関研修所教官として3年間、税関職員の教育に従事。